

平成24年度 第2号



太宰治 文学サロン (三鷹市)

三鷹にたいへんゆかりの深い、日本の近代文学を代表する作家、太宰治の「太宰治文学サロン」は、2008年の太宰治没後60年と2009年の生誕100年を記念して、太宰が通った「伊勢元酒店」の跡地に2008(平成20)年3月に開設されました。

サロン内では企画展示を開催し、定期的に展示替えをしています。太宰治直筆原稿(複製)、初版本などの資料を公開し、太宰治関連グッズも販売しています。

HP: <http://mitaka.jpn.org/dazai/>

開館時間: 午前10時~午後5時30分

休館日: 月曜日、年末年始(12月29日~1月4日)

入館料: 無料

目次

- 「共生社会」実現のために.....(1)
- 平成25年北多摩東地区保護司会初春研修・新年会.....(2)
- 平成24年度北多摩東地区保護司会地域活動推進協議会.....(2)
- 保護観察ケースワーク・主任官コメント.....(3)
- 東京更生保護事業関係者顕彰式.....(4)
- 平成24年度多摩地区保護司会連絡協議会表彰祝賀会を開催.....(4)
- 社会参加活動.....(5)
- ぶんくつピックス.....(6)
- 北多摩東更女の近況と活動状況.....(7)
- 桐友会だより.....(7)
- 北多摩東BBS会活動状況について.....(8)
- 平成24年度第II期地域別定例研修.....(8)
- 退任保護司・新任保護司.....(8)
- 編集後記.....(8)

昭和25年5月25日保護司法が施行され、約63年が経過しようとしています。この間の長い歴史の中で、北多摩東地区保護司会の皆様には、法律に規定された保護司の使命を大事にしながら、日頃から犯罪や非行防止のため、ご尽力いただいておりますことに対し、心より敬意を表し、深く感謝申し上げます。

さて、北多摩東地区においても、都市化の進行により、地域を取り巻く環境はめまぐるしく変化し、地域内の関わりが希薄になっていくのも事実であります。つい50~60年前には、地域における人間関係により地域の安全や一人暮らし高齢者の見守りなどが行われてきました。しかし、最近では、高齢者・子ども・障害者への虐待、日常生活を脅かす犯罪、孤独死、家族間の悲惨な事件など、多くの社会問題が起きております。これらの現象は、地域社会における「絆」の薄さが原因のひとつでもあると思います。

平成23年3月11日の東日本大震災以来、市民の方々が、改めて地域社会の「つながり」の必要性を再認識されるようになりました。

本市では、**「共生社会」実現のために**、地域関係者の皆様とともに「つながり合える」「助け合える」「支え合える」社会の実現に向け、様々な地域づくりの取り組みを進めていきたいと考えています。この「地域福祉」の実現に向けては、特に、地域を支えていただく保護司の皆様のお力添えが必要です。

また、保護司の皆様の支援の対象者である人たちの立ち直りには「立ち直りを支える地域のチカラ」が必要であります。「温かく見守ってくれる地域社会があり、相談できる人がいる。」そのような、地域の人々の支えがあることが、本人の更生と社会復帰につながる道になります。このような取組によって、地域の皆様と共に支える「共生社会」と犯罪のない社会を築いてまいりたいと考えております。

最後に、貴会の益々のご発展と保護司の皆様のご健勝とご活躍を心からお祈りいたします。



「共生社会」実現のために  
国分寺市副市長  
樋口 満雄

平成25年

## 北多摩東地区保護司会初春研修・新年会

1月18日(金)午後1時から吉祥寺東急インに於いて、恒例の平成25年北多摩東地区保護司会初春研修・新年会が82名(内、会員61名)の出席を頂き開催されました。

初めに、當麻光会長、東京保護観察所首席保護観察官の中島明様からの新年のご挨拶を頂きました。次いで講師としてお願いした中島首席より『社会の変化に即した保護司の推進』をテーマに、①経験年数別 ②成人保護観察事件担当状況別 ③平成16年調査との比較についてグラフ・表を基に保護司の意識調査の結果について講演がありました。

休憩後、岡田副会長の開会の挨拶で新年会が始まり、當麻会長から、「中島首席の講演の中でふれられた保護司活動のやりがいや負担感のこ

とを念頭に置きながら日々更生保護活動をしてまいりたい。」

### 北多摩東地区保護司会 初春研修・新年会



石渡統括観察官から、「平成24年の犯罪白書より、再犯者が減少しないため、再犯防止が大きな課題となっている。サポートセンターについては、今年度新たに11施設の確保が予定されている。今後とも改善に努力して参りたい」とのご挨拶を頂きました。

平成24年度の受彰者15名の皆様方へ北多摩東地区保護司会から記念品が贈られ、そのご功績を称えられました。引き続き、三市副市長・森久保多摩連会長他のご来賓の祝辞・紹介がなされ、北多摩東桐友会代表世話人山代法道様の乾杯の

ご発声で懇親の会に入りました。楽しい雰囲気の中、昨大好評のお楽しみ抽選会が行われ、参加者からは喜びの声がありました。

本木副会長の中締め、大矢副会長の閉会の挨拶で散会となりました。皆様方のご協力に感謝申し上げます。

(総務部長 千本木 勘博)

平成24年度

北多摩東地区保護司会

### 地域活動推進協議会

BBS会 菊池 由華

中村すえこさんの講演をきいて

「人は変わる！私のセカンドチャンス」というテーマで、中村さんは自分の生い立ちから現在に至るまでをありのまま話してくださいました。中村さんの話す一言一言が心に染み、涙ぐみながらお話する姿に、こちらも胸がいっぱいになると同時に勇気づけられました。中村さんは妊娠したことをきっかけに、ここで変わらなければ自分は一生変わることが出来ないと思ったエピソードを語って下さいま

した。私はきっかけは人それぞれではありませんが、変わろうとする「強い意志」が変わる上でとても大切なことであると思いました。そして中村さんが変わろうと思うことができたのは、お母様からの愛情があったからでした。この事から立ち直りには「自分を守ってくれる人がいる」という安心感や、信頼関係が大切だということに改めて感じさせられました。BBSとして普段活動している時は、プライベートもあるし、少年たちの生い立ちなどを詳しく聞くことができませんが、一人ひとりが様々な思いを抱えており、BBSに対しても期待してくれている部分があると思います。従って私達BBSは少年たちの支えに少しでもなるよう、うな、そういう存在になれるよう、活動していきたいと思いました。



保護観察ケースワーク



国分寺分區  
田中 良人

私が保護司の委嘱を受け賜ったのは平成11年9月でした。最初に担当したのは少年の保護観察で、その後覚せい剤関係が2件、暴力団との関係が1件、性犯罪が1件、その他様々なケースを担当してまいりました。

今回の事例報告は元妻に対する嫌がらせ等による器物破損、脅迫、建造物侵入の罪で懲役2年6月執行猶予5年保護観察付のケースです。本人はストーカーなどとしておらず、こちらが被害者だと思っている成人男性でした。

初めて面会した時は身構えた態度で自分からは話さず、こちらから話すと言言二言話すだけでした。無職でしたが2カ月ほどで新宿のホテルマンとして就職することができました。しかし、持病の痛風により1カ月ほどで退職せざるを得なくなり、彼自身とても不安定な状態でした。幸運にも内縁の妻

が保険会社に勤めているとの事で家計の方は大丈夫の様でした。

次に見つけた仕事は彼が好きな車関係の仕事で陸送の運転手でした。そのころから少しずつ話すようになり、根暗い表情も穏やかになりました。持病の痛風が出て仕事を4、5日休む事もあり心配な部分もありましたが、本人の好きな運転の仕事ということと内縁の妻の支えもあって、頑張つて続けていました。

担当して1年半ほど経過し、健康面では痛風が出たりと不安定ですが、陸送の仕事は先輩の指導と本人の努力の甲斐あって慣れることができたようです。面会時には自分から話すようになり、笑顔を見せるようにもなりましたので、主任官に相談し仮解除を申請しました。

申請をしてから約1年、幾つか問題もありましたが仮解除が出ました。本人に通知したところ、笑顔で「ありがとうございます」と答えて、嬉しそうでした。

初めての面接では無口で暗かった彼が、周囲の方の支えによって仕事を見つけ、人間的に成長していききました。仮解除決定を伝えた時の彼の笑顔を見て保護司として活動する喜びを改めて感じました。

主任官コメント

東京保護観察所立川支部  
保護観察官 平田 和英



田中良人保護司には期間の長い4号観察を最後まで担当いた

だきありがとうございます。対象者の気持ちや態度し、それに合わせた対応で相手の気持ちのカードを徐々に丸くしていく。そして最後には笑顔を引き出す。理想的な保護観察処遇ですが、なかなか思うようにはいかないものです。

さて、保護観察は、号種によって随分と難しさのちがうものです。1号観察は来訪確保が難しい。2号は非行が進み再犯傾向が強い。3号は来訪は守られる傾向にあるが、犯罪傾向が深化している。そのわりに調子が良く言い逃れが巧み。乱暴な分け方ですが、実務者の正直な実感です。

では4号観察の難しさは何が挙げられるでしょうか。私は、その保護観察期間の長さに難しさを感じます。短いほうで3年、長いと5年。対象者も話すことが無く

なってきましたと述べる者もいます。同様にこちらでも話すことが無くなってくる。何となく間が持たない。趣味が同じとかであれば別でしょうが、まずそういったことは少ない。無理に話を引っ張ると会話がギクシャクしてしまう。こんな時は面接時間を短くして対応していくので良いと思います。

随分と簡単に結論付けましたが、現実問題としてギクシャクした会話を数年にわたって続けていることは対象者にとっても保護司にとってもつらいものです。

最後になりますが、仮解除について少々説明をします。これは観察所が地方更生保護委員会に申出をし、それを受けて決定がなされます。保護観察を仮に解除しても改善更生が出来ること認められる場合にするものとされ、ハードル高く、1号観察の解除とは似て非なるものであります。再犯に至ることの多い覚せい剤、性犯罪事案などについてはさらにハードルが高いといつていいでしょう。しかし保護司として必要と感じられることがあったら主任官に相談して下さい。

## 東京更生保護事業関係者顕彰式

平成24年度の東京更生保護事業関係者顕彰式典が11月20日新宿区立新宿文化センターで開催され、北多摩東地区保護司会の関係者33名が、更生保護事業の進展に寄与された功績を顕彰されました。

瑞宝双光章受章者

近藤 統 祥 (武蔵野)

藍綬褒章受章者

亀田 裕 彦 (国分寺)

法務大臣表彰

小美濃 晃 子 (武蔵野)

酒井 浩 治 (三鷹)

全国保護司連盟理事長表彰

砂崎 國 男 (武蔵野)

高橋 良 和 (武蔵野)

関東地方更生保護委員会

委員長感謝状

更生保護女性会

西尾 恵 子 (武蔵野)

関東地方保護司連盟会長表彰

五十嵐 京 子 (小金井)

薄田 有 鄰 (三鷹)

音田 大 樹 (三鷹)

指田 昌 雄 (三鷹)

清水 勉 (小金井)

三橋 優 子 (三鷹)

山崎 祐 子 (武蔵野)  
渡邊 卓 利 (小金井)

関東地方更生保護女性連盟

会長表彰

田中 邦 子 (国分寺)

東京保護観察所長表彰

井上 智 順 (小金井)

須藤 利 一 (三鷹)

千本木 勘 博 (小金井)

長谷部 豊 子 (国分寺)

東京保護観察所長感謝状

家族功労者

森田 芳 子 (国分寺)

更生保護女性会

塚本 フ ミ (小金井)

山田 淑 子 (武蔵野)

BBS会

黒川 郁 子 (東京芸芸大学)

水間 智佳子 (東京芸芸大学)

東京都保護司会連合会会長表彰

阿部 勉 (三鷹)

東京更生保護女性連盟会長表彰

小谷 由美子 (三鷹)

中館 文子 (三鷹)

小野山 達 久 (武蔵野)

菊地 一 雄 (三鷹)

正田 道 子 (三鷹)

田中 博 (国分寺)

峯岸 桂 一 (国分寺)

### 平成24年度

### 多摩地区保護司会連絡協議会

### 受彰祝賀会を開催

12月7日(金)立川グランドホテルにおいて、受彰祝賀会が開催されました。

立川支部管内の本年度受彰者(叙勲、藍綬褒章、法務大臣・全国保護司連盟理事長表彰)と多摩連理事等110名が集い、久保貴東京保護観察所所長、宮川憲一東京都保護司会連合会会長、中野淳子東京更生保護女性連盟会長、清水庄平立川市長を来賓にお迎えして行なわれました。

記念撮影後、正午開宴。國井富枝理事の司会により会は進行。森久保康男多摩連会長の挨拶に続い



て全受彰者が壇上で紹介されました。ご来賓諸氏から祝辞をいただいた後、46名の受彰者を代表して田中蓉子保護司(西多摩地区保護司会)が謝辞を述べられました。引き続き懇親会に入り約2時間にわたり、各地区の保護司諸氏の交流と懇親が行われ、晴れやかな祝賀の会となりました。

社会参加活動

北多摩東地区保護司会主催の社会参加活動も各分区を一巡し、今回が5回目となり、再び三鷹分区の担当となりました。

12月9日当日は、白い息の出る寒い中、農業公園に総数48名(主任官・対象者6名・保護司28名・BBS2名・更生保護女性会6名・事務局3名・対象者の親2名)がこの活動に参加しました。

清掃作業では、対象者同士で、また保護司と一緒に、落ち葉を掃く人・集める人・運ぶ人と分担協力した結果、落ち葉はみるみるうちに無くなり綺麗な公園となりました。

予定より1時間も早く作業が終了し、昼食にはまだ早いので、隣接の緑化センター会議室で、平田主任官のお話を聞くことになりました。主任官によると最近は少年の保護観察事件数・人数ともに減少傾向にあるとの話のほか、私的興味として3億円事件の犯人分析の話となり、当時青年であった保護司の方々の関心を引き、盛り上がったところで昼食の時間となり、皆さんで三鷹分区女性保護司の手作りカレーライスを美味しく

いただき、散会しました。社会参加活動は単に対象者に対する地域社会への奉仕活動として有るだけでなく、担当保護司との協働作業を通して相互の信頼関係を深める絆となっているような気がしました。

(地域活動部三鷹分区 須藤利一)



北多摩東地区保護司会の事務局になって

小金井市福祉保健部地域福祉課

高橋 奏恵

平成24年8



月1日より、北多摩東地区保護司会及び小金井分区事務局を担当させていただくことにな

りました。

お恥ずかしい話ですが、私は担当になり初めて「保護司」という言葉を知りました。地域の防犯や安心安全なまちづくりをしていきたいという気持ちで、市役所を体験しましたので、前任の事務局担当より「保護司」について説明を受けた際、自分の目標に関係することができ、精一杯サポートしていきたいと、気合が入る一方で、このような大役を私が任って良いのかと、不安に思う気持ちもあり

ました。

保護司の皆様はとても優しく、気さくに、まだまだ不慣れな私に色々な事を教えてくださいます。担当となり、行事や会議、研修など様々な活動に参加させていただき、日々、貴重な体験をさせていただいています。

事務局としては、まだまだ微力ではありますが、精一杯バックアップをしていきたいと思っておりますので、今後ともご指導の程よろしくお願いいたします。

国分寺分区



茨城就業支援センターを訪ねて

夏の暑さが続く9月初め、私達は24年度の管外研修として、茨城県ひたちなか市にある「茨城就業支援センター」を訪ねました。

このセンターは、国の自立更生促進センター構想のもと、法務省、厚生労働省、農林水産省の3省連携による出所者等の就業支援を目的として、平成21年9月に開設されました。入所者は成人男子(定員

12名)で、期間は6ヵ月。その間に農業実習や学科指導、保護観察官から生活指導、就労指導を受け、農業従事者として自立を目指します。終了生の中には、農業生産法人に就職した人や、実家の農業を継ぐべく頑張っている人もいます。

農園が離れた所にあるため、農業訓練の様子は映像で見せていただき、掃除の行き届いた清潔な居室や



共有スペース（風呂、トイレ、食堂、教室等）を見学させていただきました。土に触れ作物を育てることを通して、新たな生きがいを見出せるよう支援する…。緑豊かな我が国分寺分区にとって、大いに参考となる研修でした。

（戸倉史江）

### 小金井分区

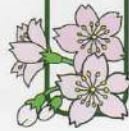
前橋刑務所を視察して

12月10日、事務局を含む総勢14名にて小金井市役所を出発し、途中福だるま発祥の寺「少林寺」を見学しました。閑散とした境内でしたが、正月には「だるま市」が開かれ、数十万人の参拝者が訪れるようです。

その後、赤煉瓦の正門や外壁に囲まれた、120年の歴史がある前橋刑務所を視察しました。

かつては長期受刑者の収容先として知られ、「監獄」そのものの重厚な外観は、今でも映画のロケにも使用されているようです。

収容定員は939名で、現在は受刑者が増え、飽和状態にあります。刑期は平均3年4カ月で、犯罪の主な種別は窃盗が37%、覚せい剤



27%となっており、平均年齢は47歳で、最高年齢は83歳と、ここでも高齢化が進んでいます。

収容者は4回以下、最高は24回の受刑者もいるようです。

施設内では刑務作業を通じ、社会復帰への指導を行っています。復帰を果たしたものの、職に就く機会に恵まれず、再度犯罪を犯し、入所する者も少なくないようです。

協力雇用主の拡大並びに連携による就労支援の強化や、薬物依存者に対する回復プログラムの実施等、再犯防止に向けた支援の必要性を痛感しました。（小川和男）



### 武蔵野分区

防災体験に学んで

12月4日、江東区有明にある、防災体験学習施設、「そなエリア東京」で学んできました。

国や自治体などの支援体制が十分に整うまでは、自力で生き残らなければならない、その目安は3



日間、といわれています。

その3日間を、どう生き残るかを体験するのです。マグニチュード7.3、最大震度6強の首都直下地震の発災から避難までを、音響、照明、映像により、余震が繰り返されるジオラマの中を、DSを使い、ペアを組んで注意事項を確認しながら避難場所へと、生き抜く知恵を真剣に学びました。エレベーターで下降中に地震発生、床が振動し、訓練とはわかっていても、ドキッとなりました。

シネマステーションでは、首都直下地震の再現CG映像が上映されています。非常放送に従って、危険な市街地を抜けて、安全な避難場所にとどり着いた時には、全員がホッとした様子。



防災倉庫やテナントの展示からも、緊急時をどう生き抜くかのヒントを学びました。ペットボトルを組み合わせた、テーブルと椅子にこれは良いアイデア、と女性陣

は大気に入り。

アニメの放送、オペレーションルーム等を見学し、屋上からヘリポート、ベースキャンプ用地等を望み、又、花と緑あふれる公園では、家族で楽しむこともできるようです。

3・11以来、特に防災に大きな関心があるところなので、学び多い場となりました。（山田淑子）

### 三鷹分区

東京拘置所を視察して

三鷹分区の日帰り研修が行われ、視察先は東京スカイツリーと、新しく生まれ変わった小菅の東京拘置所でした。拘置所ではコンクリートの高い塀も取り除かれ近隣の住民にあまり威圧感を与えない、その代り地上の運動場以外の所では建物から外には出られないようになっているとのこと。

ところで私は、ここに入った入所者達は毎日どのような気持で過ごしているのだろうか、全く反省もなく出所の日を数えて過ごしているのか、又は二度とこうした所に入るものかと、自分の犯した罪を反省し後悔しているのか、何故



犯罪を起こす前に考えることができなかつたのかと思いました。

又、最近の犯罪・事件について考えるに、今日、毎日のようにニュース報道されている殺人事件の容疑者は逮捕されてからナイフや鉄パイプ等で刺したり打ちつけていながら、「殺す気はなかつた」と言っているが、ある日、何の落度もない身内を失った被害者家族にしてみれば「殺意があるうとなかるうと」悲しみは同じことなのです。又、マスコミ等も被害者の様子を詳細に報道するのに対して、加害者に対してはモザイクをかけたたりしてプライバシーを守っています。まだ犯人と決まっていないうために犯人扱いができないということだろうが何か不自然だと思つています。あまりにも加害者が保護されていているような気がしてなりません。これでは犯罪者を含め、軽犯罪をもっと多くなつていくのかなとも思つております。



私は今回の研修の場では聞くことができなかつたのですが、「死刑が確定しているのになかなか疑問を前々から持っていました。殺人事件がニュースで流れるたびに思うことです。人の命は簡単には裁けない。でも加害者は簡単に命を奪っているのです。犯罪のない世の中になることを願っています。」

(星野直治)

### 北多摩東更女の近況と活動状況

北東更女武蔵野分区長 西尾 恵子

現在正会員427名。収入は会費・賛助会費・寄付金・東更女連盟主催観劇会協力へのわずかな返戻金、そして保護司会からの助成金です。この助成金10万円は収入の1割以上を占めており、諸活動の応援をして頂いていることを有難く思っています。

総計85万円余りの収入は、研修・各分区の活動・広報・事務会議費として有効に使われ、第7ブロックの分担金もその一部です。各分区の活動については、施設訪問等を行つて勉強するとともに親睦を深めており、年1回発行の

広報紙「クローバー」でお伝えしています。

さて今年度の研修先として、久里浜少年院を訪問しました。11月8日、小金井市社協のバスみどり号をお借りして理事のみ34名の参加でした。

少年院共通の矯正教育を主に、基礎体力・学力を鍛えなおし、自尊心の向上・社会適応力の習得に力を入れる一方、特に個別的な生活指導が必要とされる少年のほか、日本語によるコミュニケーションが困難な外国少年を受け入れています。

途中鶴岡八幡宮を参拝した後、昼食をとりお土産をかうというお楽しみもありました。帰路、車中でミニ理事会ができた事は今回の試みの成果だと思えます。

#### 桐友会だより

山代 法道

#### 東京桐友会の活動

平成24年4月27日、第1回理事會を開催。事業・収支決算報告、役員等の選任等の協議。

9月6日、第31回「東京桐友会会員の集い」が、会員及び参列者

合計約280名の出席のもと私学会館「アルカディア市ヶ谷」にて開催。北多摩東桐友会からは会員2名、担当保護司1名が参加。

10月30日、「地区桐友会代表者協議会」を開催。「集い」の決算報告の後、各地区ごとにそれぞれ活動内容の報告。概ねは、例年通り新年会、総会、社会を明るくする運動等保護司会の実施する行事への参加。数地区においては保護司会や協会から助成を受け、また会費制等で、独自の旅行や懇親会を実施。(第32回東京桐友会会員の集い開催日、平成25年9月11日)

#### 北多摩東桐友会の活動

平成24年5月24日、総会時に今年度は少人数であっても、日帰り旅行か食事會を開催したいと話し合いましたが、未実施。活動としては、他地区と同様地区や分区の保護司会が実施する行事への参加に止まりました。

新入会員 武蔵野 藤田 収氏

(平成24年11月1日)  
三 鷹 小川 牧子氏  
(平成25年1月5日)

計 報 三 鷹 荻野友二郎氏  
(平成24年12月22日)

### 北多摩東BBS会活動状況について

BBS会会長 浅利 道子

北多摩東BBS会は現在28名の学生と2名の社会人の計30名で活動しています。具体的な活動は地域の中学校での保健室登校児の支援や授業支援、様々な施設での学習支援、ともだち活動など、自分の興味がある活動に各々が参加しています。また、月に1回、学習会を開き、更生保護に関する知識を深めることに加えて定期的に保護司会主催の研修会に出席し、日々研鑽活動に努めています。

昨年10月に保護司会の方から、多摩少年院の見学にお誘い頂き、想像はしていましたが常に監視されているトイレや寮など、かなり厳しく統制された環境を目の前にして、私は「少年の更生」は容易な道程ではないことを改めて感じました。私達は「少年の更生」の困難さを忘れずに日々の活動に取り組んでいきたいと思えます。

また、今年度は国分寺市で開かれた吹奏楽コンサートで更生保護について発表させて頂く機会を頂いたことや、社会人の方が入会されたことなどから、徐々に北多摩

東BBS会が地域の皆様にご認知されてきたと感じることができた年でもありました。この事は今まで

北多摩東BBS会の先輩方が真摯に活動に取り組んでこられた結果であり、私達も先輩方の意志を受け継ぎ、より一層誠実に日々の活動に向き合っていきたいと思っています。

### 平成24年度 第Ⅱ期地域別定例研修

#### 家族等関係者への働き掛け

—生活環境の調整の場面を中心に—

10月19日は国分寺いずみホールで、10月26日は三鷹駅前コミセンで実施されました。

主任官は、家族への働き掛けを行う目的を具体的に話されました。引き受け人との初回面接の進め方、対象者との通信、施設に出向いての面接等の留意すべき事項について講義されました。

対象者の立ち直りに良い影響を及ぼす、家族調整の大切さを痛感いたしました。

事例研究は、今回は1グループを6、7人にして、グループ内で全員が発言できる機会を持てるようにしました。経験の浅い新人保護司の中には、発言することが大

変に感じているという声もよく聞かれますが、発言のチャンスを得ることも大事なことです。今回は

いろいろな意見が出たことで、事例の話し合いが盛り上がりました。

6班からそれぞれの発表がなされ、これに対しての主任官のコメントがありました。

年に3回の地域別定例研修は、身近な会場で担当主任官による大切な研修です。

今回は出席率が70%台でした。皆様ご多用とは思いますが、今後出席率100%をめざして、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。(研修部長 松村久子)

### 退任保護司

左記の方々が退任されました。

永い間ご苦労さまでした。今後

も益々お元気で活躍下さいませよう祈念申し上げます。

石田いく子氏 (小金井分区)

平成24年8月31日付 在職22年

高橋 良和氏 (武蔵野分区)

平成24年12月21日付 在職20年

酒井 浩治氏 (三鷹分区)

平成24年12月21日付 在職20年

横田 美郎氏 (国分寺分区)

平成24年12月21日付 在職28年

### 新任保護司

平成24年12月22日発令  
今後のご活躍に期待致します。



(国分寺分区)  
坂田 米子氏



(小金井分区)  
遠藤百合子氏

### 編集後記

日々寒い日が続きます。一昨年より、会報が年二回となりました。私達広報委員も活動・研修等の記事をまとめて皆様に伝えていますが、記事を書いていただく皆様には、大変なご苦勞をされていると推察致します。各委員は、皆様に伝えやすく又、読み易くするように日々頑張っているところです。

広報について意見・ご要望等がございましたら各分区担当委員にお申し付けください。

(小金井分区) 信山 勝由